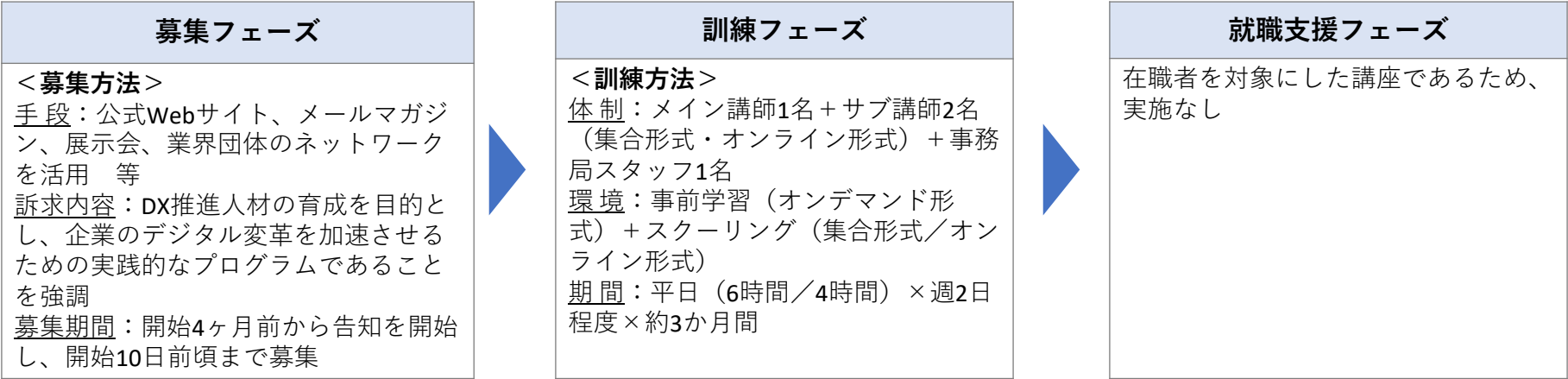


〈訓練パッケージの全体像〉

受講対象者の属性		DX推進の中核人材候補となる30歳以上の中堅社員（IT企業および非IT企業に在職するIT人材）
受講対象者が直面している課題		・ 所属組織から中堅社員として様々な能力や役割が期待されている（変化に対応する能力、後輩の育成、リーダーシップ、改善提案力、ビジネス創造力、コラボレーション力） ・ 業務多忙により学習時間が確保できない ・ 職場において、自律的な学びが評価されにくく、学んだことを実務に活かす機会が限られている
訓練概要		本講座は、 DXを活用した新規ビジネス創造 について学ぶことを主たる目的としている。反転学習、ケーススタディ、グループワークを組み合わせた 実践的な学習プログラム を提供し、受講者が学んだ知識やスキルを 実務で応用できる力 を養う。
訓練の新規性	既存訓練の課題	学習内容が実務と直結しておらず、短期間での知識詰め込み型の研修が多い。また、学習内容を実務で活かす機会や学んだことが評価されにくい。
	本訓練での試み	反転学習を導入し、事前学習とスクーリングの効果を最大化した。スクーリングでは、グループワークを重視し、実践的なスキルの習得を促進した。また、訓練前・後に面談を実施し、上長とのキャリアプラン共有を強化した。
カリキュラム		・ マインドセット（3h） ・ マネジメント（12h） ・ IT・テクノロジー（24h） ・ ビジネス基礎知識（4h） ・ 社会・市場調査/課題の発見（17h） ・ 市場性の検証（30h） ・ ビジネスモデルの検討（10h） ・ 体制の検討（8h） ・ 使用技術の検討・構築/商品・サービスの検証（14h） ・ 総合演習（28h）

〈訓練パッケージの流れ〉



〈試行結果〉

試行時期	2024年8月～10月	試行エリア	東京（集合形式）＋オンライン
受講者数等	受講定員：28名 受講者数：28名 修了者数：27名		
結果に対する評価			
新規事業創出・DX推進など多様な受講目的に対応し、 実務に活かせる知識とスキルの習得 に貢献した。特に「フレームワーク活用」「リーダーシップ向上」が評価され、次世代リーダー育成に有効とされた。一方で、「講座内容の既知性」「期間の制約」「業務適合性」などの課題が指摘され、対象者選定や講座設計の改善が求められる。総合演習では「グループワークの効果」が好評だったが、「プレゼン時間の不足」「オンラインサポートの強化」などが課題。受講者の満足度と推奨度は高く、今後は講座設計の最適化と運営体制の強化により、さらなる効果向上が期待される。			
効果が得られた施策とその要因			
第1回試行時に課題となった受講者募集について、開講スケジュールの最適化と受講者募集方法の改善を実施した。その結果、受講しやすさが向上し、定員充足率100％を達成した。			
① 開講スケジュールの最適化 勤務時間内（10:00～17:00/14:00～18:00）の受講に変更したことで、土曜日や勤務時間外に受講負担を排除。結果として、「受講しにくい」と感じる受講者の割合が低下した。			
② 受講者募集方法の改善 受講開始の約4か月前から周知・募集開始を開始し、「受講者の声チラシ」を作成。これにより、企業が計画的に受講者の調整をしやすくなり、受講希望者の安心感と信頼感が向上。結果として、定員充足率100％を達成した。			

〈今後の訓練手法活用に向けて〉

今後の課題及び改善策
本講座の更なる学習効果向上に向け、 受講者の負担軽減と新規ビジネス創造に関する実務応用力の強化 が課題となっている。
① 受講者の負担軽減 開催期間が長いと感じる受講者が45％を占め、業務との両立が課題 →改善策：カリキュラムを精選・短縮し、 重要な内容に集中 受講スタイルの多様化（夜間・週末開催やオンデマンド教材を導入し、 柔軟な学習環境を整備 ）
② 新規ビジネス創造に関する実務応用力の強化 仮想企業での演習経験は積めたが、 自社の課題に即した提案力が不足 →改善策：より具体的な企業事例やケーススタディを追加し、 実践的な提案力を強化 これらの改善により、受講者の 負担を軽減しながら、実務で活かせるスキルの習得 を促進する。